



# 長野県地域おこし協力隊 募集・受入伴走支援

## 活用ハンドブック

---

# 目次

---

- はじめに
- 募集・受入伴走支援とは
- 各自治体での取組



# はじめに

---

本ハンドブックは、令和4年度及び令和5年度に、中間支援組織と実施した募集・受入伴走支援の成果を取りまとめたものです。

自治体の職員だけでは、地域おこし協力隊を取り巻く課題（募集しても応募がない、隊員とのミスマッチ、定住率の低迷、庁内理解の不足等）を解決することが難しいこともあります。

本ハンドブックで取り上げた事例のように、中間支援組織を活用し、募集・受入れの体制を整えることも効果的です。今後の取組の参考としていただければ幸いです。



# 募集・受入伴走 支援とは

---

# なぜ、募集・受入伴走支援が必要なのか・・・

---

## 地域おこし協力隊を取り巻く課題

- ・そもそも地域おこし協力隊に何をやってもらえばいいかわからない・・・
  - ・地域課題を地域おこし協力隊のミッションに落とし込めない・・・
  - ・募集を開始しても応募がない・・・
  - ・採用してもミスマッチが発生→地域課題の解決・定住に結び付かない・・・
  - ・庁内で地域おこし協力隊への理解がなく、うまく活用できていない・・・
- など

# 支援を受けて効率よく課題を解決！！

---

課題を抱えていても…

自治体によっては蓄積したノウハウがなく、効率よく解決できない…

⇒**中間支援組織で蓄積したノウハウをもとにした支援**を受けることで、  
**自治体が抱える課題を効率よく解決**できます！

# 支援の一例

※課題に合わせてプログラムを組み合わせることが可能です！

## ①庁内募集内容検討会の開催

(ミッションとなりうる地域課題をピックアップ)

## ②関係者ヒアリングの実施

(地域課題の詳細な状況を確認し、ミッションとして適するか検討)

## ③募集内容の作り込み (ミッションの詳細設計)

## ④合意形成ワークショップの開催

(隊員に関わる関係者間での受入準備)

## ⑤募集要項作成 (応募者に伝えたいことが適切に伝わる記載内容を検討)

## ⑥募集PR (効果的なPR方法の選択)

## ⑦おためし協力隊の企画 (選考プロセスとして全体構成を企画)

## ⑧選考支援 (市町村が求める人材を選考)

# 活用できる特別交付税措置

- **地域おこし協力隊員の募集等に要する経費**

1 自治体あたり**上限350万円** ※令和7年度から上限引き上げ

経費例：募集案件の企画についてアドバイスを受ける経費、PR経費、各種コーディネートに係る委託費 等

- **おためし地域おこし協力隊の実施に要する経費**

1 自治体あたり**上限100万円**

経費例：PR経費、地域協力活動の体験プログラムに要する経費、各種コーディネートに係る委託費 等



※令和 5 年度支援成果

**南箕輪村**

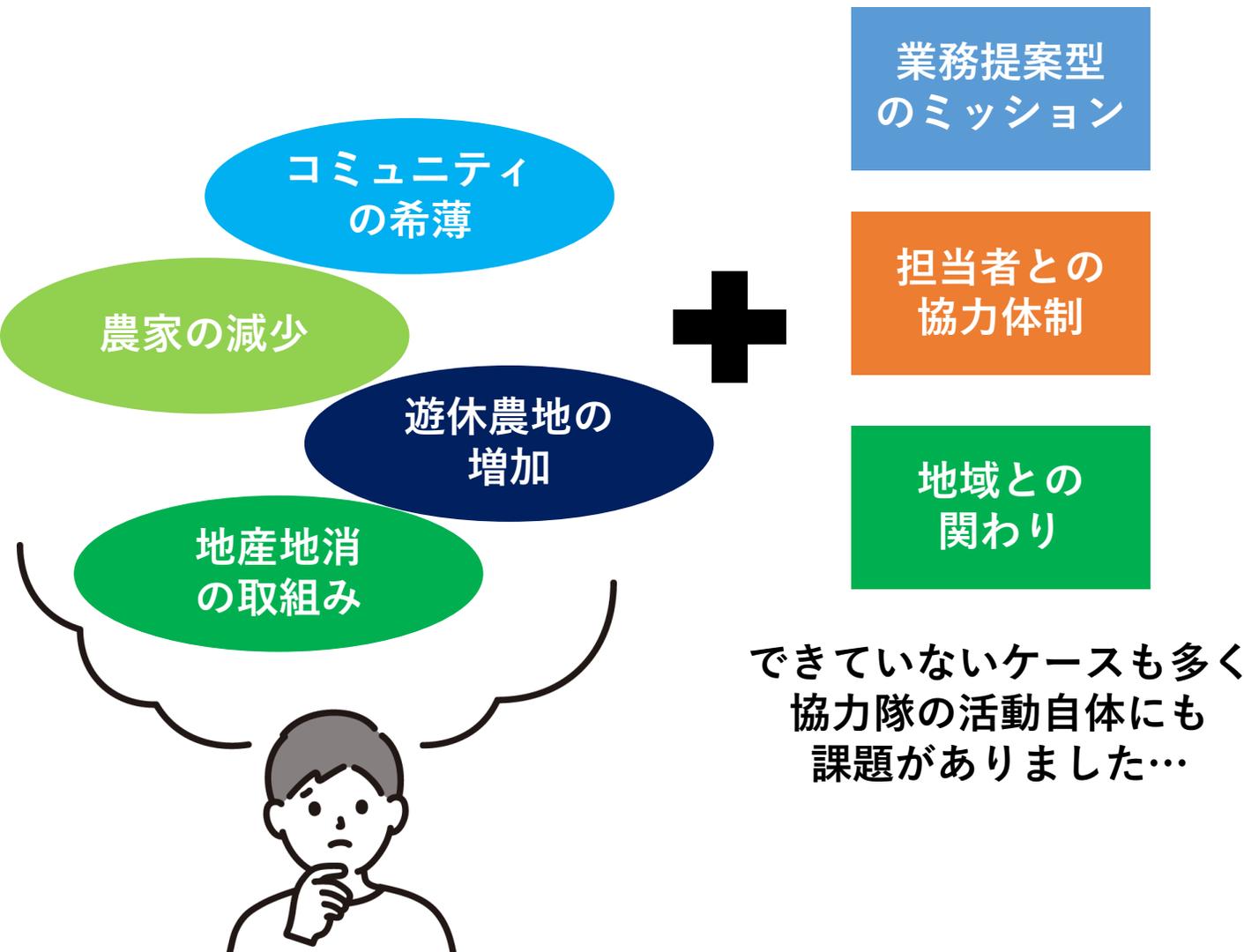
---

# 背景・目的

## 村の課題

## これまでの協力隊

## 課題のため…



# 取組内容

## 募集に係るスケジュール

7月

- ・ 村役場職員へのヒアリング

8月

- ・ 関係者へのヒアリング

9月

- ・ 関係者のニーズを踏まえた募集内容のブラッシュアップ

10月

- ・ 募集内容に関する関係者への合意形成

11月

- ・ 募集記事作成のための取材対応

12月

- ・ 募集開始・県合同募集説明会への参加

1月

- ・ 募集記事の公開及び募集サイト運営による募集説明会の開催



# 取組内容

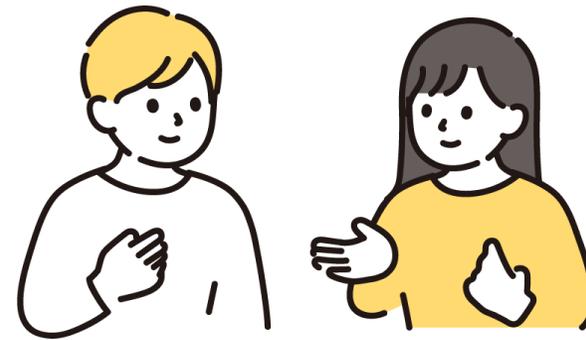
## 村役場職員へのヒアリング

※LII…一般社団法人ローカルイノベーションイニシアチブ（長野県地域おこし協力隊ネットワーク）

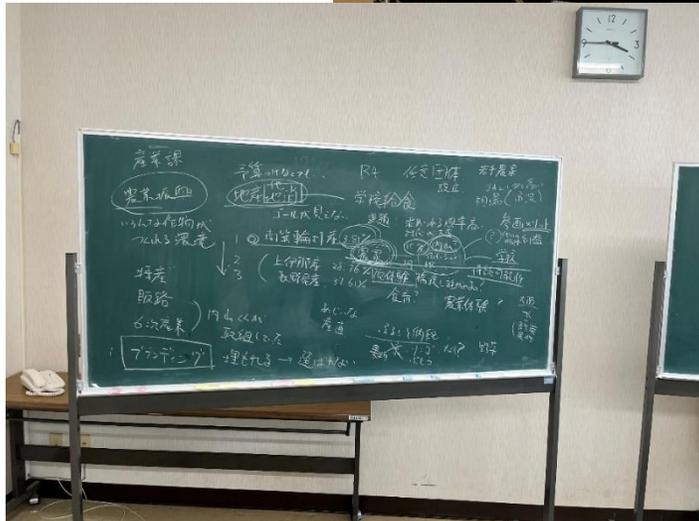


こういった業務内容なのかを担当者と地産地消に取り組み集落支援員、LIIの杉山氏と対話しながら

## とにかく想いを言語化！



職員同士の想いを言語化してお互いの考えを共有をすることが大切と感じました。



# 取組内容

## 関係者へのヒアリング

### いちご農家・商業者

地域との関わりを作れる人が来てほしい  
SNS運用ができ、販路拡大のサポートしてほしい

### 酪農家

消費者や村民、同業者とのつながりを作ってほしい

### 村内給食提供者

村農産物が使えそうな仕組みを作ってほしい  
農家とのつながりを作ってほしい

### 農家

草刈りや稲刈りの季節労働を一緒にしてくれるような人が来てほしい。

それぞれの立場で欲しい人材が違う…  
共通していることはつながりの創出



# 取組内容

## 関係者のニーズを踏まえた募集内容のブラッシュアップ



### 当初の想定ミッション： 学校給食における地産地消の取組み

協力隊に何をしてほしいかが明確になっているのか。  
地域の要望に応えるような業務になっているのか。  
ミッションは魅力的なものになっているのか。  
協力隊が卒隊後、生計を立てていけるのか…。



LIIの杉山氏を交えて募集内容を担当者と集落支援員で考え抜いた結果…

**今回募集する協力隊のミッション：  
農家や農業団体とのつながりをつくり、  
村の農業コミュニティの活性化を図る  
農村コミュニティビルダー**

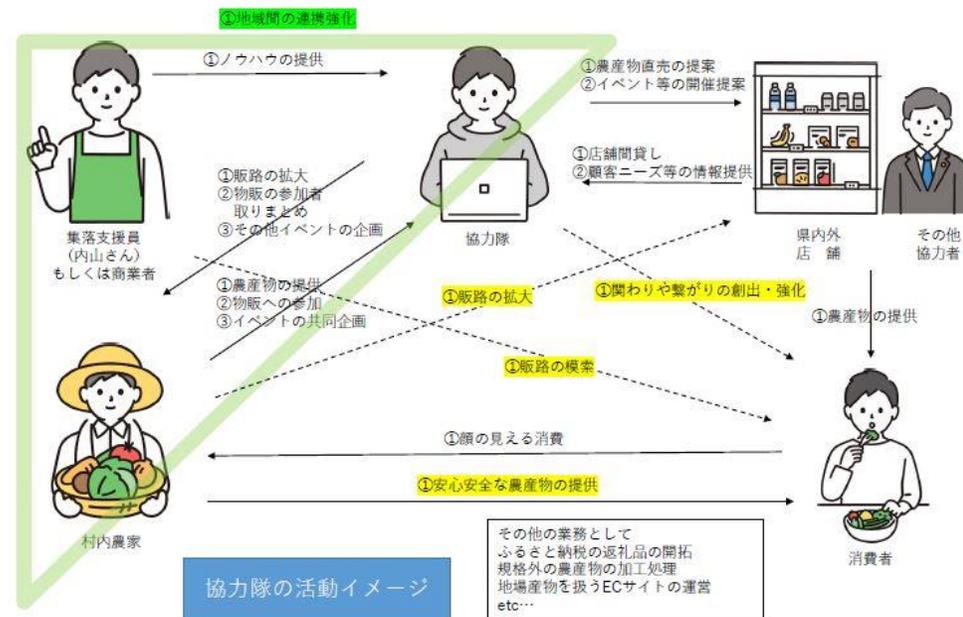
# 取組内容

## 募集内容に関する関係者への合意形成

LIIの杉山氏から地域おこし協力隊制度について説明  
そのうえで、今回募集する協力隊のミッションについて説明して、ご意見をいただく中で、どんなミッションで募集をかけるのか、関係者の皆さんに納得してもらうことができました。



**地域の関係者との共有により、さらに協力隊が活動しやすい環境ができた（はず）**



# 取組内容

## 募集記事作成のための取材対応



ながの人事室を運営しているNPO法人MEGURU  
による募集記事作成のための取材を受け、

**さらに想いを言語化！**

**地域への愛着の再確認と募集する協力隊  
の活動内容のイメージをさらに深めるこ  
とができました。**

# 取組内容

## 募集開始・県合同募集説明会への参加

12/12に行われた県主催の合同募集説明会に4町村が参加  
町村ごとの募集する協力隊のミッションの説明の後、ブース  
に分かれての相談会

相談会参加者は0人…

受け入れる側の想いの伝え方の大切さと  
難しさを実感しました…



事前予約制  
途中入退場OK オンライン開催

しあわせ信州  
地域おこし協力隊  
合同募集説明会  
令和5年  
12/12 (火) 申込期限 12/7まで

参加市町村 南箕輪村・豊丘村・王滝村・飯綱町

第1部 19:00～ 開会/市町村ごとの説明会  
第2部 20:10～ 市町村ごとの相談会/閉会

長野県で地域おこし協力隊に  
なってみませんか？

- 地域おこし協力隊の活動に興味のある方
- 新しいことにチャレンジしたい方
- 地域社会に貢献したい方
- 農業に興味がある方
- 人とのつながりを大切にしたい方
- 長野県へ移住をお考えの方
- 都会を離れてゆっくり暮らしたい方
- 豊かな自然の中で過ごしたい方

お申込みはこちらから  
参加市町村の募集情報は裏面へ

【主催】南箕輪村・豊丘村・王滝村・飯綱町  
長野県企画振興部地域振興課  
☎ 026-235-7021 ✉ ktsuryoku@pref.nagano.lg.jp  
🌐 <https://www.pref.nagano.lg.jp/shinko/saishetsu/chikokoshikyoku/yokuteinohiroo.html>

# 取組内容

## 募集記事の公開及び募集サイト運営による募集説明会の開催



村HP

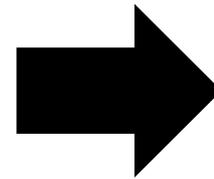
JOIN

NEW

ながの人事室

SMOUT

募集記事の公開サイトを増やす他に  
1月30日に募集説明会を実施したところ…  
11名の参加！（申込者は22名）



**結 果**  
2名からの応募が  
ありました！



# 成果・課題

## 募集設計したことによる成果

職員同士の対話による

地域や関係者との対話による

想いの共有

課題の擦り  
合わせ

課題の  
自分事化

想いの言語化による

活動内容の  
魅力UP

ミスマッチ  
の解消



# 成果・課題

## 今後の課題

協力隊ひとりを採用するため…

業務負担が  
重い

協力隊を募集するにあたり…

人材不足を  
補う感がある

協力隊の募集内容を伝えるため…

職員では作成  
するハードル  
が高い

だからこそ

協力隊に係る  
財政措置

を上手に活用！





※令和5年度支援成果

**豊丘村**

---

# 協力隊を 募集した背景

---

①豊丘村が目指す観光を遂行するための

---

事業整理及び組織・人員整理

---



②事業を行うための必要人員の把握

---



③現有人員と足りない人員の把握

---



④足りない人員を誰で補うかの検討

→ここではじめて「協力隊」を採用するかどうかの検討

# 豊丘村

# 一般社団法人 豊丘村観光協会

①・②・③  
の図解

豊丘村長

産業振興課長

観光地域づくり事業  
業務委託

豊丘村観光協会長 (代表理事)  
(豊丘村長)

非常勤

理事

(観光協会会員より4名)

とよおか旅時間

商工林務係

農政係

観光振興係長

事務局業務・管理運営業務の人的支援

事務局長  
統括マネージャー

常勤

豊丘村観光協会スタッフ

会計年度任用職員<月給> (2名)  
会計年度任用職員<時給> (3名)  
地域おこし協力隊<起業型> (2名)  
地域おこし協力隊 (1名)

人的支援

- ・味覚狩り体験
- ・自転車関連・旅行企画
- ・観光案内・道の駅支援
- ・観光スポット管理

レストラン運営スタッフ

パート8名  
+  
アルバイト3名

豊丘村観光協会スタッフ

は、職務免除規定により業務中に豊丘村観光協会業務を行うことができる。  
※起業型協力隊は、村から観光協会スタッフ業務及び一部協会事業を業務委託する。

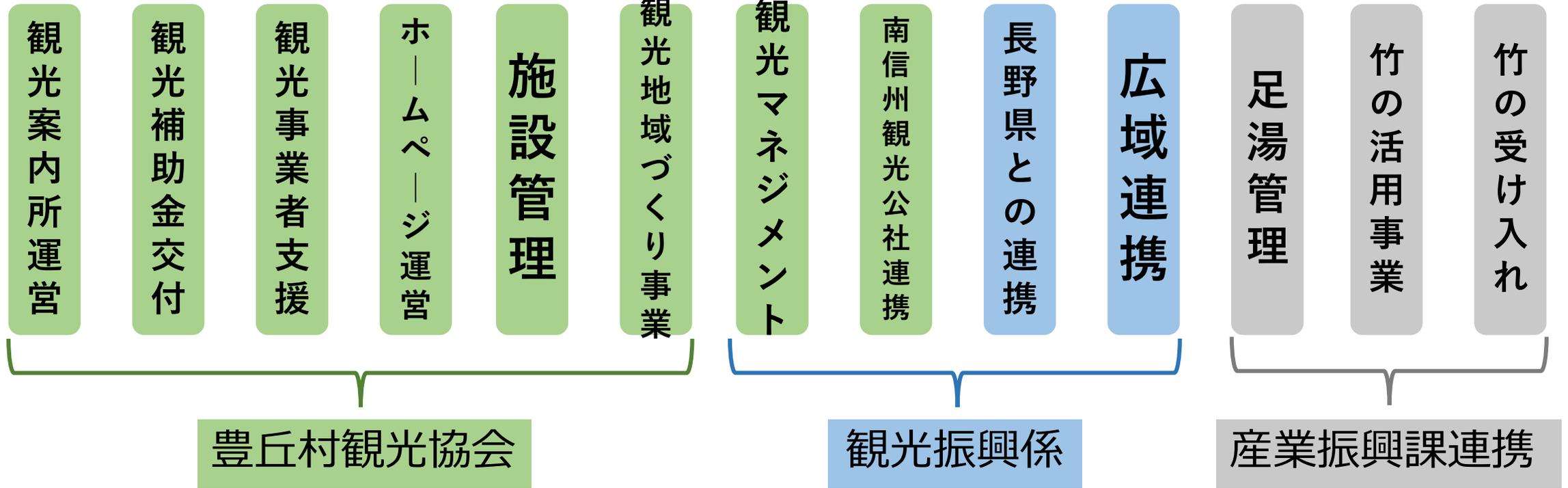
**観光地域づくり事業** = 観光による地域課題の解決を目指す観光マネジメントを行った地域ブランディングを構築する事業

# 豊丘村が目指す観光

## 観光による地域課題の解決

～住民のための観光事業の構築～

= 公共的事業 =



村からの指定管理委託及び業務委託

# = 収益事業 =

味覚狩り

自転車

たけのこ狩り

もも狩り

りんごの木オーナー

源助かぶ菜刈り取り体験

野菜狩り

レンタサイクル

ガイドツアー

イベントプランニング

自転車修理

レストラン運営

旅行プランニング

コーヒー販売

施設使用

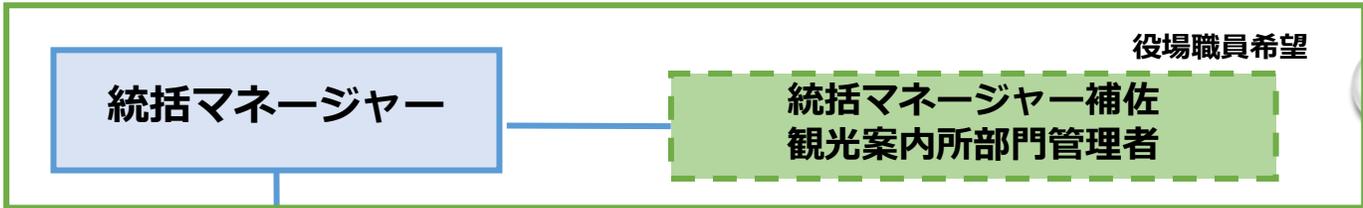
※可能な限り、村内農家・宿泊事業者・飲食業者・観光事業者など村民との関わりを持つ企画になるよう事業展開をしていく。

## 今後行う予定の事業

自転車のサブスク（月貸し）・自転車マッチング・旅行相談・ツアー企画  
ネイチャーガイド（川・山）・ウォーキングツアー・宿泊パックツアー  
修学旅行受入れ・ガイド養成講座

行政業務を担当（豊丘村役場産業振興課観光振興係）

とよおか旅時間  
（豊丘村観光協会）  
組織図



旅時間部門  
マネージャー

レストラン部門  
アシスタントマネージャー

観光案内所部門

観光案内担当

観光案内担当

旅時間部門

観光協会会計担当

自転車  
関連担当

広報・WEB担当

味覚狩り  
体験担当

味覚狩り担当

味覚狩り  
体験担当

味覚狩り担当

地域おこし  
協力隊希望

レストラン部門

フードコーディネーター  
兼 レストランリーダー

キッチン担当 4人

ホール担当 3人

仕入れ担当 1人

+アルバイト3名

R5中に  
配置転換

R6に営農支援（農政係）担当へ配置転換

事業・部署の増加による配置転換を行ったことで、特に旅時間部門に人員が足りなくなっていた。旅時間部門は、当村の観光の根幹を司る部署となるため、増員が必要と判断した。

現在足りていない人員

①・②・③の事業整理及び組織・人員整理等は、昨年度までに行っていた作業で、今年度当初に④を行い、協力隊募集に至りました。

## 協力隊募集に係わるスケジュール

1. 6月＝補正予算（協力隊募集に係わる予算計上）
2. 8月＝LIIと打ち合わせはじめ
3. 9月＝ながの人事室への記事取材～掲載
4. 10月＝ながの人事室WEB説明会（11/1募集開始）
5. 12月＝県合同説明会参加（12/20募集締切り）
6. 1月＝書類送付～書類選考（1次審査）
7. 2月＝お試し協力隊開催（3名）～面接（2次審査）



3名とも採用

# 活用したメディア

## ①ながの人事室

記事インタビュー・記事、募集要項の掲載  
WEB説明会の開催

## ②SMOUT

募集要項の掲載・記事への誘導・WEB説明会動  
画への誘導

## ③JOIN

募集要項の掲載・記事への誘導・WEB説明会動  
画への誘導

# 人材獲得ができた最大のポイント

- ①協力隊募集のために仕事を作ったわけではなく、業務に対する足りない人材を協力隊で募集
- ②求める人材を可視化する記事
- ③記事を見て興味のある方への直接アプローチ
- ④プレゼン資料の作りこみと仕事の魅力アピール

# お試し協力隊で双方の意識確認

## 豊丘村

書類や面接だけではわからない人となりの部分や、興味のあること、好きなこと、得意なこと、逆にこれをされたら嫌だと思う部分など、個人としての人間的部分を2泊3日の時間の中で知ることができ、採用するために必要な情報を得ることができた。

この時、審査側の豊丘村職員では聞き出せない部分や感じられない素の部分をLIIの支援で引き出してもらい共有した。

## 協力隊応募者

豊丘村とはどういうところなのか、自分が移住・定住・就労するに値する場所かどうか、この人たちと一緒に仕事ができるかどうか、ここで仕事がしたいと思うかどうかの確認ができた。

# 取り組みを通しての気づき

- ① 募集相手も人生をかけてやってくるという認識
- ② なぜ、あなたが必要なのかの可視化と説明
- ③ 協力隊任期後の具体的な役割の説明  
→ その際、どのような人材になっていて欲しいかの伝達
- ④ 自分が豊丘村でどのような役割を担えるかを  
イメージさせることの重要性



※令和 5 年度支援成果

**松川村**

---

# 募集・受入設計の背景

---

- ・H28から協力隊を受け入れ、延べ31人(現役隊員含む) OB・OG 20名 現役11名  
(移住定住促進、農業支援、安曇野ちひろ公園、英語教育支援、スポーツ振興支援 など)
- ・これまで募集をする⇒複数名からの応募がある状況が続いた
- ・近年では、募集分野によって、応募がない⇒今回、募集設計をした福祉系業務
- ・人気のある分野は多くの応募がある(安曇野ちひろ公園、農業)
- ・過去にはミスマッチによる途中退任の続出やこれまでの定住率(49%)が悪い
- ・募集要項を単に事務的に作成して募集してきた
- ・退任後の出口を設計してきていない
- ・職員の協力隊制度や隊員への理解が低い

# 事業の実施体制

---

採用・とりまとめ課 : 総務課噂の田舎へ案内係

所属課 : 各課で任用し、人事管理や業務管理を行う

募集設計 : 採用・とりまとめ課である総務課噂の田舎へ案内係で、しっかりと募集設計をし、具体的な活動内容や退任後の出口などを検討しないか所属課に投げかけ、実施することになった。

委託業者(LII)との調整、所属課とのヒアリング等の日程調整等は、とりまとめ課で行い、実際のヒアリングや団体との調整は、所属課で行ってもらった。

# これまでの協力隊募集について

---

## ●福祉の地域づくり活動

これまで3回ほど募集をかけるが、いずれも応募のなかった分野

背景には、社会福祉協議会での慢性的な人手不足、行政ではないが行政的な立場も踏まえつつ、単なる人員補填とならないように検討する必要があった。

(当初設計)

ボランティアコーディネーターとして、コロナで低迷したボランティア団体の復活やボランティア人材の確保、HPやFB・インスタ等のSNSなどの情報発信できる人材がほしい

⇒これまでの募集している内容は、人員補填であることに気づく

また、協力隊を募集していることを他の職員やボランティア団体等には相談せずに募集をかけていた

# 取り組みの全体像

---

R5.6月 補正予算確保

7月～8月 業務委託契約 ヒアリングシート作成や日程調整

9月 LIIとのヒアリング開始（担当職員やボラ団体）

10月 職員向け制度研修会の開催、団体ヒアリング

11月 LII打ち合わせ、ヒアリング

12月 社協職員の研修、最終調整（合意形成）、合同募集説明会参加

R6.1月 募集（HP、募集広告等）

2月 おためし協力隊実施及び面接試験



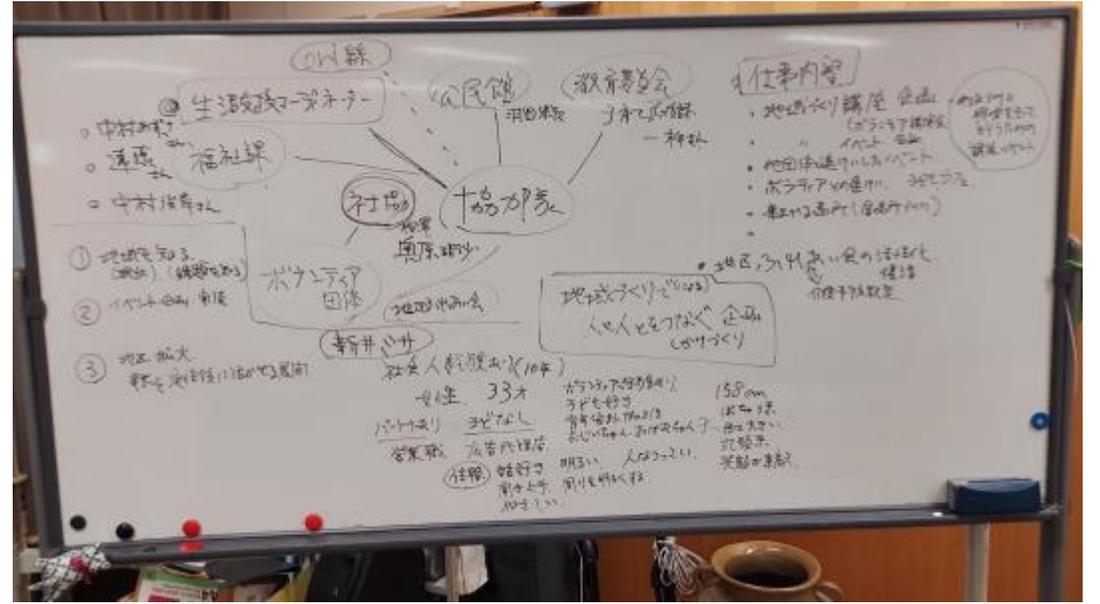
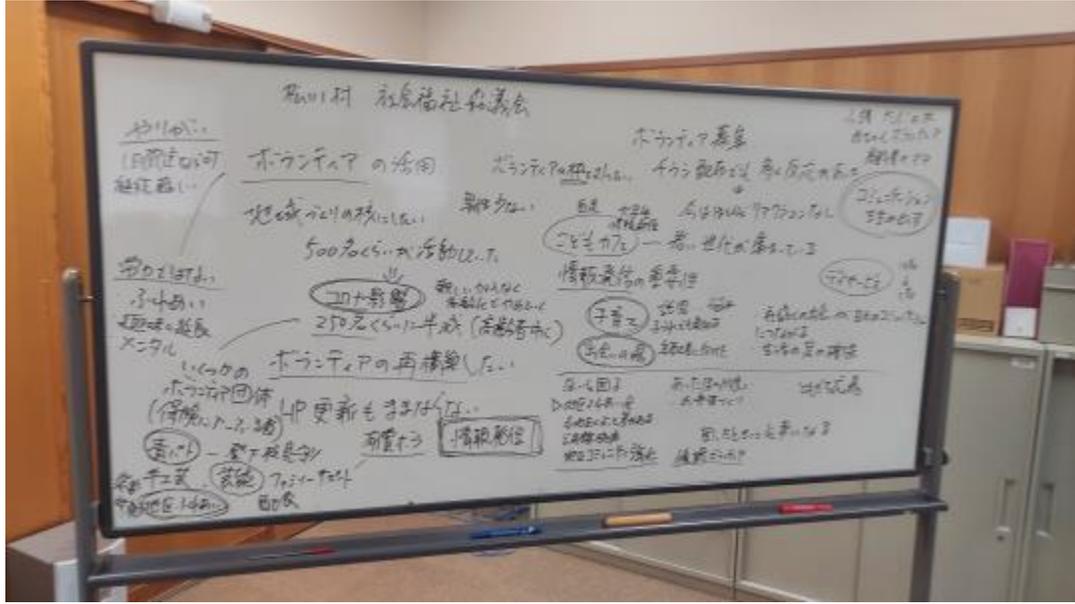
## 職員の日線合せ研修の様子

# 取り組み内容

---

## 地域課題、ニーズの把握

- ・関係する職員やボランティア団体にヒアリングを行い、これまでのボランティア団体の経過や課題の把握を行う
- ・これまでは、職員や関係者から業務内容や課題などの話を聞く機会はなかったし、職員側からも話すこともなかったなので、現場の生の声が聞け、課題が掘り起こされた
- ・協力隊がいなくなれば継続しないような活動はNG
- ・退任後の出口をイメージ、ペルソナ設定(求める人物像)のイメージ



話し合いをまとめたホワイトボード

## 募集案件の組成

### ● 「“人と人をつなぐ” 福祉の地域づくり活動」 に決定

\* 地域福祉のセーフティーネットをめぐらせる「コミュニティサポーター」となる人材

(主な活動内容)

- ・ 地域のニーズをとらえたイベントや講座の企画、運営
- ・ ボランティア団体や公民館などと連携した企画
- ・ ボランティアコーディネーターの推進
- ・ ホームページ、広報誌やSNSによる情報発信 など

## 退任後の イメージ

\* 経験を生かした社会福祉協議会での就業

\* 半福半Xなど社会福祉協議会でのコーディネーター業務＋スキルを生かした副業

\* 地域づくり活動での起業

## 募集記事の掲載



「子は村の宝。」人とのつながりから「ここで暮らし続ける理由」をつくる



「顔の見える関係性」のつながり役。誰もが安心して豊かに暮らせる地域をつくるために

ながの人事室「募集記事一覧」より

# おためし協力隊の実施

## 募集活動の内容

村HP、JOIN、ながの人事室などメディア掲載

## 任用方法

おためし協力隊(体験ツアー+面接試験)

2泊3日で体験ツアーを実施

1日目:ディスカッション

2日目:村内ガイドツアー・ワークショップ

3日目:個人面接試験



# 成果・課題

---

## 募集設計での変化

- ・単に募集するだけではなく、入口・出口の設計を関係する人を巻き込んで、話し合うことで、課題の整理や全体で協力隊を受け入れる体制・準備ができ、歓迎ムードが芽生えた

  - 課題の解決: ミスマッチの防止、途中退任の防止、定着率の向上

- ・ヒアリングなどにより、地域の課題・問題点などへの気づきや、そもそもなぜ協力隊として受け入れられるかということが明確になった

- ・これまでは村側の都合だけを考えていたが、協力隊の将来も含めて、関係する大勢の職員や地域の方と一緒に考える機会になったことは大きな変化

  - 課題の解決: 職員の協力隊制度や隊員への理解の向上、+関係する地域住民も理解向上

# 成果

---

これまでなかった応募が複数名(7名)あり、手ごたえを感じた

→応募書類時点で、ペルソナ(求める人物像)に近い、人柄やスキルを有している方が多かった。

→つまり、単純な応募人数の増加ではなく、ストライクゾーン(採用したい)内の応募人数が増加した。

→優秀な人材の確保

## 今後の募集。受入への課題

・LII及び団体ヒアなどの日程調整がうまくいかず、募集するまでのスケジュールがタイトになってしまい、余裕をもった日程調整をする必要を感じた

・受入する分野すべて募集設計することが望ましいが、予算的、マンパワーなどを考慮する必要がある

→特に下記条件を有する分野にて募集設計し、課題であるミスマッチ防止、定着率向上を目指す

\* ミスマッチが発生しやすい(協力隊と職員のコミュニケーションが取りづらい)

\* 出口が作りづらい(内部の視点だけは、定着方法が見つからないなど)

・最終的には、より良い協力隊(人材)を確保する目的があるので、多少の苦労はあるが、募集設計をしたことは、大変よかった



※令和5年度支援成果

**信濃町**

---

## 背景・目的・ねらい

---

### 背景

- ① 令和5年度4月時点で4名の隊員が活動 → 受入部署：総務課、産業観光課、教育委員会
- ② ふるさと納税ミッションの隊員1名を約1年半募集 → 10名以上からの問合せと面接2回実施
- ③ R5年度現役隊員2名任期満了で卒隊 → 卒隊後に中間支援組織設立を検討



### 課題

- ① 庁内での受入部署を拡大したいが、地域おこし協力隊制度に対する職員の理解が必要
- ② 国・県の研修に参加し、熟度の高い募集要項の作成が必要
- ③ 中間支援組織による具体的な支援内容の経験が必要

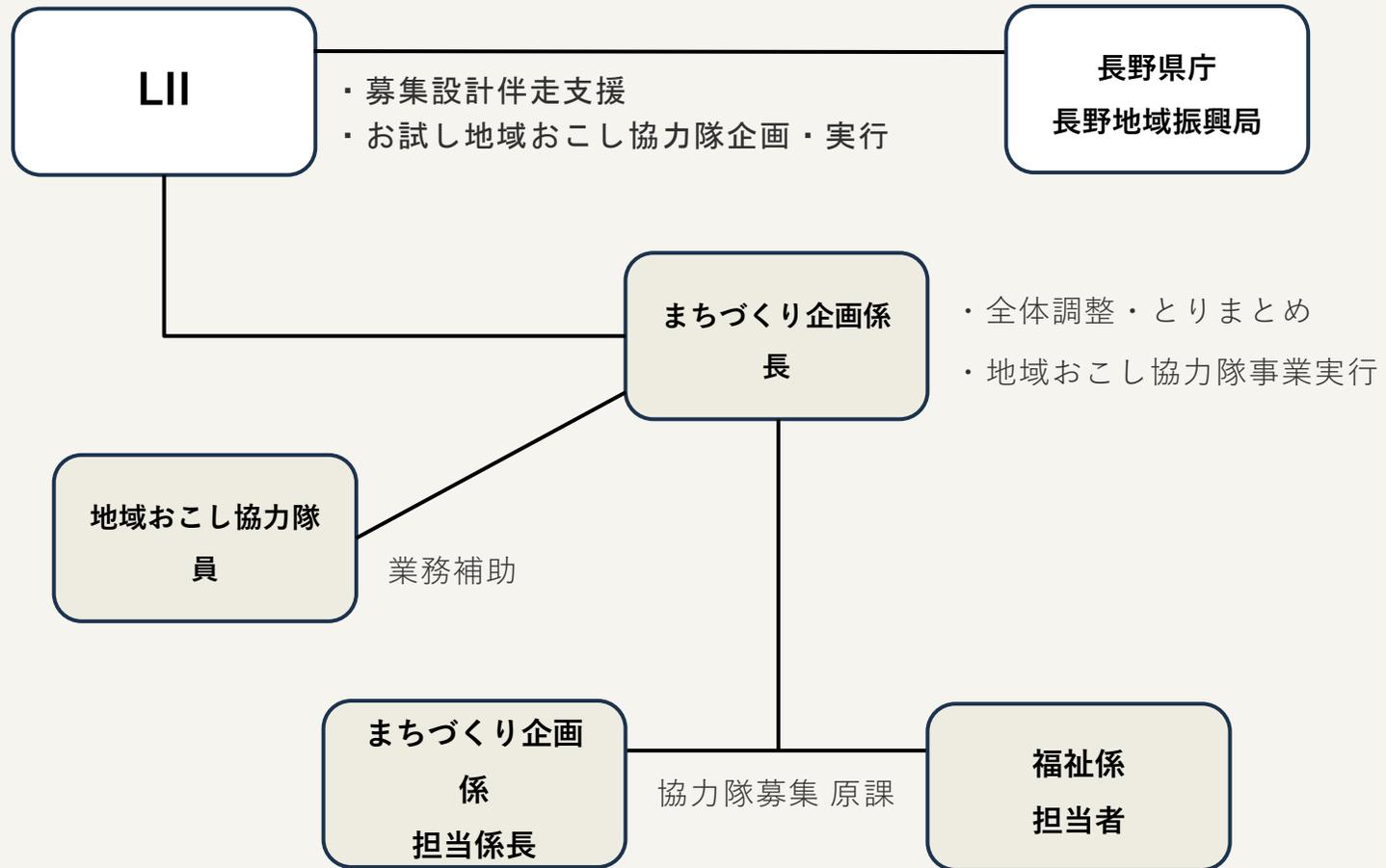


### ねらい

- ① 地域おこし協力隊制度に関する研修会を全係長対象に開催、原課から募集ミッションの提案
- ② これまで協力隊の募集を庁内関係者だけで進めてきたが、地域関係者と一緒に募集要項の作成をするプロセスを経験
- ③ 伴走支援事業を隊員と一緒に取り組むことで、次年度以降の地域おこし協力隊事業に関して、継続的に安定した事業推進を図る

# 実施体制

---



## 実施スケジュール

---

### ■ 8月～10月 地域課題・ニーズの把握

#### 8月下旬 協力隊募集検討会

職員向け研修、各系の個別相談（4件相談あり）



#### 9月上旬 募集係決定

福祉係・・・地域活動支援センター  
まちづくり企画係・・・ファンクラブ担当

#### 9月下旬～10月中旬 関係者ヒアリング × 2回



## 実施スケジュール

---

### ■ 11月～12月 募集案件の組成

11月上旬～12月中旬 募集内容決定・募集要項作り込み

職員による募集内容の詳細詰め、言語化

12月中旬 合意形成ワークショップ

各係ミッション関係者との目線合わせ

1月初旬 募集要項完成



## ■ 12月下旬～2月上旬 募集

12月20日 長野県 合同募集説明会にて募集詳細初公開

相談者 3名

12月25日 ながの人事室（LIIからの委託先） 募集記事用取材

1月9日 募集要項決定

1月10日 募集開始（町のWEBサイト、JOIN等）

1月下旬 ながの人事室 募集記事公開

2月12日 応募締め切り

当初予定であった1月末から変更 応募者9名（うち2名辞退）



## ■ 2月中旬～3月 マッチング・選考

2月15日 応募者向けオンライン説明会

3月1日～3日 お試し地域おこし協力隊

2月下旬～3月上旬 オンライン個別面談（必要に応じて）

3月中旬 理事者面接者選考

3月下旬 理事者によるオンライン面接・最終選考

## 応募者へのアンケート

---



### 募集を知ったきっかけ

1. JOIN
2. 友人の紹介
3. 県のホームページ  
現隊員のSNS投稿  
県の合同募集説明会



### 応募の決め手

#### 一番の決め手

1. 自然環境など  
町そのものの魅力
2. 募集内容・ミッション

#### 二番目の決め手

1. 職員や関係者の雰囲気

※ 回答多い順

## 成果・課題

---

### 当初からの変化

- ① 庁内でR 6年度から住民福祉課1名、産業観光課（伝統工芸）1名の受入れ拡充が図れた。  
また、建設水道課でもR 7年度着任のミッションを検討することになった。
- ② 募集サイトへの記事作成と応募者の調整を簡単に済ませることが、募集伴走支援と考えていたが、募集担当者がしっかりと協力隊の受入れについて向き合う時間を取った。

### 成果・気づき

- ① 募集要項を作成する前に地域の関係者と役場担当者が、「なぜ」協力隊を受入れるのか？「どうやって」3年間の活動をするのか？について話し合えたことで、着任後のビジョンがクリアになった。また、受入れるためのミッション（課題）設定について共通認識が持てた。
- ② 募集要項を作成するプロセスを簡単にしてしまうと着任後のミッションスタートが遅くなり、結果として3年間の活動で得られる成果に影響が出ることに気づけた。
- ③ しっかりと練られた募集要項には、しっかりと人生を考えている方に応募いただける。

### 課題・展望

- ① 県の伴走支援のスタートが8月だったことから翌年度の4月着任で隊員募集するには、スケジュールがタイトだった。
- ② 本事業によって、今年度で卒隊する吉村隊員が中間支援組織としての経験を持てたことで、とりまとめ担当者が人事異動しても継続的に安定した事業実施ができるようになった。

### LIIの知見とファシリテーション

01

LIIによるナレッジシェア、抽象的アイディアの言語化、ワークショップや議論でのファシリテート力が素晴らしく、学びが多かった。

### 役割分担の重要性

02

しっかり募集を作りこむには職員一人では大変。役割分担がマストだと感じた。  
中間支援組織側には地域性をよく知る人がいると調整がスムーズになる。

### 募集開始から採用フェーズの支援にもニーズあり？

03

今回の支援は募集内容の作りこみやミスマッチ回避がメイン。  
周知は主に町側が自前で行う必要があったので、この部分の支援を考えることができそう。